

ワークショップ

「古代文明における 経済基盤と祭祀

—マヤとアンデスの比較—

本ワークショップでは、アメリカ大陸において成立した古代文明のうち、マヤとアンデスをとりあげ、文明初期における経済的基盤を明らかにするのみならず、権力形成という視点を通して、経済を支えていた農作物、海産物、動物資源、そして他の自然資源が、宗教を含む非経済的側面とどのような関係を築いていたのかに光をあてる予定です。これにより、生態学、あるいはマルクス主義的歴史観の中で矮小化されてきた先史時代の資源利用をより複合的にとらえることができると考えます。

【日時】2013年1月26日(土)

【場所】東京大学総合研究博物館

ミュージズホール

東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内

【定員】50名(先着順、事前申込制)

【参加費】無料

【プログラム】

13:00 ~ 13:15 趣旨説明 関 雄二 (国立民族学博物館)

13:15 ~ 14:15

「先古典期マヤ低地における公共祭祀空間の建設と社会変化」

猪俣 健 (アリゾナ大学)

14:15 ~ 15:15

「マヤ文明の政治経済組織と石器研究」

青山和夫 (茨城大学)

15:15 ~ 15:30 休憩

15:30 ~ 16:30

「アンデス形成期の神殿における儀礼的廃棄」

松本雄一 (国立民族学博物館)

16:30 ~ 17:30

「アンデス形成期社会の経済基盤と神殿建設」

関 雄二

17:30 ~ 18:30

「アンデス文明形成期におけるヘケテペケ川流域の経済基盤」

鶴見英成 (東京大学)

【主催】科学研究費補助金基盤研究(S)「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(代表:関雄二)

【共催】科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」(代表:青山和夫)

【参加申込先 および 問い合わせ先】

国立民族学博物館 関研究室

TEL: 06-6878-8252

E-mail: sekiken@idc.minpaku.ac.jp



本郷キャンパスの「懐徳門」(かいとくもん)を入れて右手正面が博物館入口です